

かわにし^新時代へ

令和8年10月22日（木）近畿都市教育長協議会 研究協議会

兵庫県川西市

「子ども主体の教育・保育の推進」

川西市教育長 石田 剛

本日の目次

1 川西市の概要

(1)川西市について (2)川西市教育委員会の組織図

2 基本方針

(1)川西市の教育理念 (2)教育長訓示のきっかけ (3)めざす方向性 (4)取組の3つの柱

3 取組の概要

I 子ども主体の学びの展開
II 子ども主体の学校園所運営
III 子ども主体の学びを支える環境整備

4 本市における他の主要施策・事業

1 川西市の概要

(1) 川西市について



人 口：15万1千人

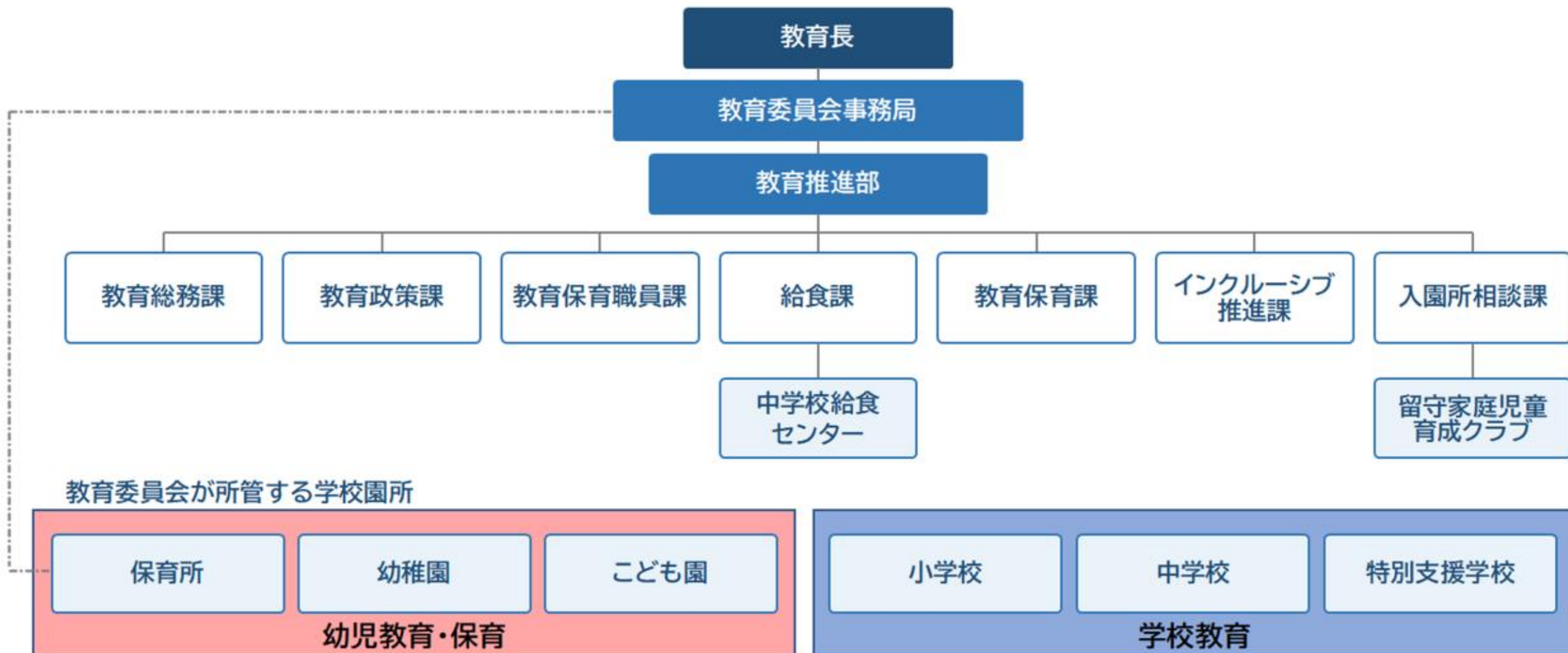
面 積：53.44km²

学校数：小学校16校
中学校7校
特別支援1校

園所数：幼稚園2園
保育所4所
こども園4園

1 川西市の概要

(2) 川西市教育委員会の組織図



2 基本方針

(1) 川西市の教育理念

教育長訓示（R6～R8）

- (1) 子どもたちを主体とした教育・保育を推進する
- (2) 学びの専門家として、主体的に学び合う「同僚性」を高める
- (3) 課題を先送りせず、将来を見据えた教育・保育のあり方を協議する

2 基本方針

(2) 教育長訓示のきっかけ

(1) コロナ禍

(2) こども基本法の施行・こども若者参加条例の制定

(3) 次期学習指導要領の方向性

2 基本方針

(3) めざす方向性

Policy①

「子どもが主体的に学ぶ時間」を積極的に推進するため、教育課程や保育計画等を柔軟に見直すとともに、主体的な学びを幅広く支援し、教育・保育全体の質の向上を図る。

Policy②

子どもが主体的に学校園所の運営に参画するロールモデルの定着を図り、子ども等の意見を踏まえて、学校運営や教育施策を見直すPDCAサイクルを充実させる。

Policy③

子ども達が主体的な学びに取り組みやすい環境を整備することや、教育保育職員との研究・協議を充実すること通して、さらなる教育・保育活動の質の向上を図る。

2 基本方針

(4) 取組の3つの柱

Policy①

子ども主体の 学びの展開

①子ども主体の学びのモデル

探究的な
学習

自由進度
学習

異年齢
学習

海外との
国際交流

劇を活用
した表現
学習

②各学校園所で「子ども主体 の学び推進PLAN」を作成

Policy②

子ども主体の 学校園所運営

①「こどもの権利」を学ぶ カリキュラムの編成

②子どもの意見を聴く機会の 積極的な確保

③当事者である子どもの意見 を踏まえた学校園所運営の 発展的な見直し

Policy③

子ども主体の 学びを支える環境整備

①子ども達が多様な学び方を デザインできる教室環境の 整備

②次期学習指導要領の動向等 を見据えた教育課程のあり 方の検討

③子ども主体の教育・保育を 推進する教育保育職員同士 の協議体の設置

3 取組の概要

I 子ども主体の学びの展開

Policy①

子ども主体の学びの展開

①子ども主体の学びのモデル

探究的な 学習

子ども達が主体的に課題を発見・設定し、その解決に向けて情報収集や分析、まとめを行う学習方法で、**その探究的な学習プロセスの中で新たな課題を創造していくことを通して学びを深める。**

自由進度 学習

各教科のいくつかの単元で、学習計画や学習方法、教材等を子どもが自己選択、自己決定し、主体的に学習を進める。自習と違い、**教師が子どもの学びや理解度を見取り、適切な環境を構成するとともに、子どもに応じた必要な支援を行う。**

異年齢 学習

異なる年齢の子どもたちがグループとなり、学び合うことを通して、**新しい考え方や異なる学び方を知ることに繋がり、子ども同士の自然な協働**から、子ども自ら主体的に学びを深める。

海外との 国際交流

子どもの異文化への興味・関心に基づき、海外の子どもと意見交流を行う。MOUを締結した台湾の新竹市・屏東県を中心に**市のモデル交流プログラムを作成し、継続的かつ系統的な学びの実現**を目指す。

劇を活用 した表現 学習

「演劇」という表現活動を学習の題材にすることで、「合意形成」「協同」「多様性への理解」について**体験的に学ぶ**。普段の生活ではなかなか表現できない**非認知能力の向上**を図る。

②「子ども主体の学び推進PLAN」の作成

市内の各学校園所は、子ども達が主体に学ぶ時間を積極的に設けるとともに、取り組む内容をまとめた**「子ども主体の学び推進PLAN」を作成**する。学校においては、**年間35～70時間を目安に子どもが主体的に学ぶ時間を実施**する。

自由進度
学習

川西市立東谷小学校の実践



自由進度
学習

川西市立東谷小学校の実践

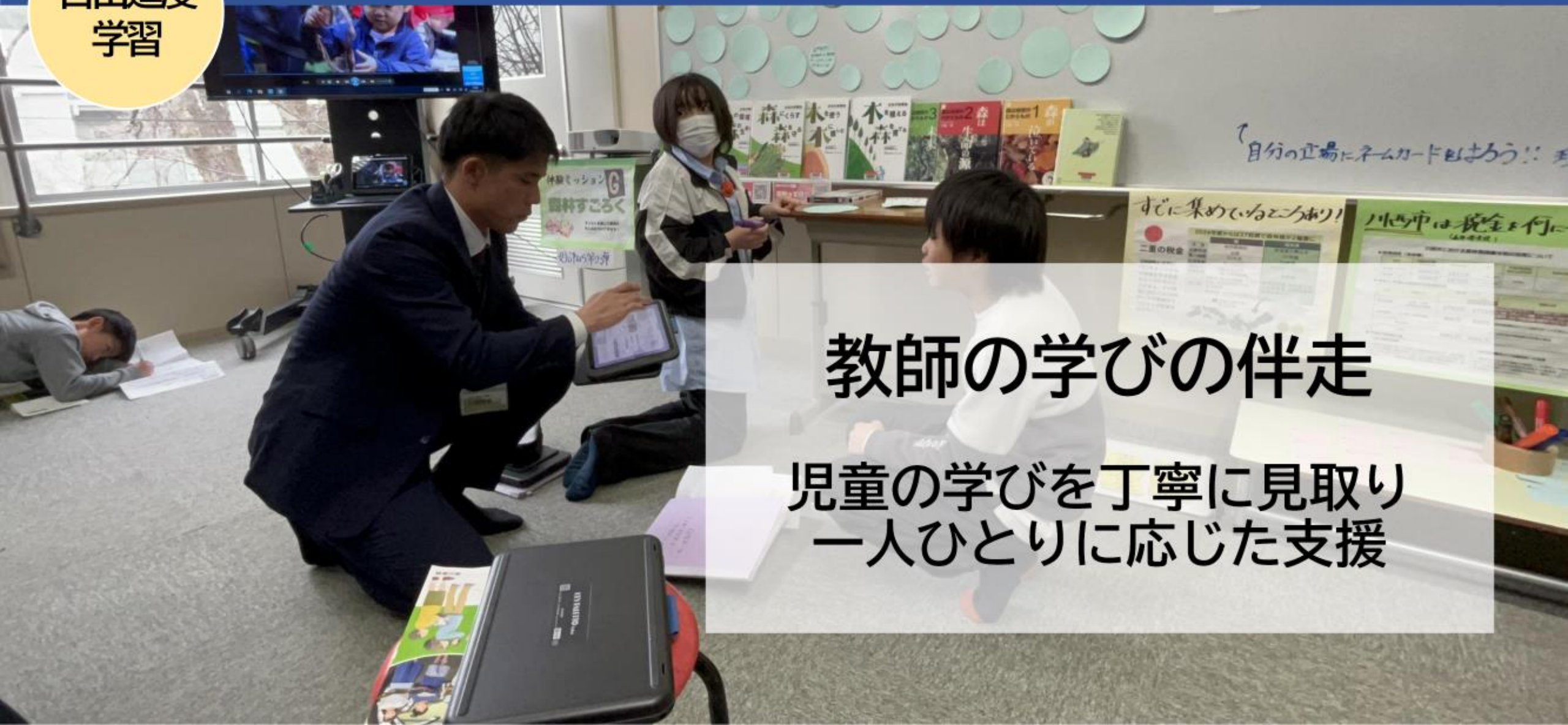


学習環境の工夫

児童の興味関心をかき立てる
学習環境を構成

自由進度
学習

川西市立東谷小学校の実践



教師の学びの伴走

児童の学びを丁寧に見取り
一人ひとりに応じた支援

探究的な
学習

川西市立牧の台小学校（研究指定校）の実践

「地域共創探究」

児童が地域課題を探究
地域の方と協働



探究的な
学習

川西市立川西中学校（サキドリ校）の実践



新教科「ミライラボ」

生徒が探究したい
テーマを設定

海外との
国際交流

川西市立明峰小学校の実践



3 取組の概要 I 子ども主体の学びの展開

② 「子ども主体の学び推進PLAN」の作成

子どもの実態	学校教育目標	QUESTとの関連

めざす
こどもの姿

研究テーマ

↓

子ども主体の学び	Vision 【理念・方向性】	
	Action 【取り組むこと】	

3 取組の概要 I 子ども主体の学びの展開

②「子ども主体の学び推進PLAN」(カリキュラム)

学年 実施時数	もととなる子どもの姿	子ども主体の活動					1学期			2学期			3学期						
		探究	自由 進度	国際 交流	劇 表現	異 年齢	その他	教育課程 上	関連 教科	時 数	教育課程 上	関連 教科	時 数	教育課程 上	関連 教科	時 数			
第1学年 40時間	小学校生活にまだ慣れていないが、就学前に行った交流やきょうだい関係などで学校生活のことを少し知っていて、憧れを抱いてすごしている。	◎				●		【単元名】がっこう だいすき 【概要】毎日生活する学校施設の特徴やそこで働いているひとについて気づくなど探究を通して学び、理解につなげる。	生	国	8			0	【単元名】もうすぐ 2ねんせい 【概要】新しい1年生に喜んでもらえるよう、年長児を招待し主体的に関わり、交流を深める。	生	国	14	
		●						【単元名】どうぞよろしく 【概要】友だちカードを作るだけでなく、対話を通して友だちとの交流を深める。	国		3	【単元名】生き物となかよし 【概要】進んで虫を探したり、観察したり、飼い方を知ったりすることで生き物への親しみをもつ。	生	国	6			0	
			●							0	【単元名】かたかなを みつけよう 【概要】カタカナを書くこと。身の回りからカタカナで書く言葉を探すこと。カタカナ道場の名人になる。	国		3	【単元名】ふゆを楽しもう 【概要】昔から伝わる遊びを楽しもう。地域の方と一緒に活動する中で、いろいろな遊びについて知り、むかしあそびの名人になる。	生		6	
第2学年 51時間	自分より年下の児童ができ、学校のことを自分の方がよく知っていると思う。 年下の子に優しくしてあげたい気持ちがあり、勉強も頑張ろうという意欲を持っている。	◎				●		【単元名】春だ今日から2年生 【概要】1年生と関わることで進級の喜びを感じ、主体的な関わりを持つ。	生		2	【単元名】動くおもちゃ作り 【概要】いろいろな材料を使い、自分で調べ、工夫して動くおもちゃを作って動かす。	生	図	12	【取り組み名】みねっこまつり 【概要】クラスごとにしずくのお店について、1～6年生が楽しめるように考え、企画・準備・運営に関わることで、主体性が育つ。	生		8
					●			【単元名】スイミー 【概要】読み取りを進めたことを自分たちで劇にして表現し、交流し合う。	国		10				【単元名】あしたへジャンプ 【概要】成長した自分を振り返り、劇にして伝える。	生		9	
		●	●							0	【単元名】九九のきまりをみつけていかそう 【概要】習得したかけ算九九が生かされる場面に関わり、すすんで決まりと見つけていく探究学習に取り組む。	算		6	【単元名】ふゆを楽しもう 【概要】昔から伝わる遊びを楽しもう。地域の方と一緒に活動する中で、いろいろな遊びについて知り、むかしあそびの名人になる。	生		4	
第3学年 39時間	この学年には特性のある児童も多いので、具体的な活動や体験活動、きめ細かい指導が必要である。 興味関心のある物事には意欲的に取り組むことができ、野外での生き物（虫など）に興味を持つ児童が多い。	●				●		【単元名】資料の活用 【概要】学校生活の中で改めた方がよい点を交流し、表やグラフに整理し、資料を活用して全校生に啓発する。	算	国 総	10				【取り組み名】みねっこまつり 【概要】クラスごとにしずくのお店について、1～6年生が楽しめるように考え、企画・準備・運営に関わることで、主体性が育つ。	総		8	
		◎				●		【取り組み名】オオムラサキを守ろう 【概要】本校敷地内に設置された国産オオムラサキのゲージでは、地域の方の協力で毎年オオムラサキが羽化していることを知り、命の尊さに触れる。	理		4	【単元名】すがたをかえる〇〇 【概要】調べたことを図や表に整理する。	国	総	6	【単元名】 【概要】2学期に調べた食べ物のひみつを資料を活用して2年生に発表する。	国	総	2
		●						【取り組み名】きずきの森での環境体験学習 【概要】地域にある森に行き、年間を通じての観察に主体的に取り組む。	総		4	【取り組み名】地域にある森(きずきの森)での環境体験 【概要】地域にある森(きずきの森)に歩いて行くことのできる環境である。年間を通じての観察に主体的に取り組む。	総		5			0	
第4学年 44時間	生活や遊びのきまりを作って守る行動や、よりよい生活を築くために集団としての合意形成の方法などを理解して話し合う活動ができる。 5、6年生と一緒に活動することで、協力し合って主体的によりよい学校づくりに参画していこうとすることが期待している。	●	●			●		【単元名】新聞を作ろう 【概要】アンケートを取り、二次表に整理してその特徴や傾向をとらえた分かりやすい新聞を作る。	国 算		10				【取り組み名】みねっこまつり 【概要】クラスごとにしずくのお店について、1～6年生が楽しめるように考え、企画・準備・運営に関わることで、主体性が育つ。	総		6	
		●		◎						0	【単元名】台湾の小学校の子どもたちと絆を深めよう 【概要】台湾の子どもたちとのオンライン交流を通して、相手の好みや文化などを知り、国際社会への理解を深める。	外	総	7	【単元名】台湾の小学校の子どもたちと絆を深めよう 【概要】台湾の子どもたちとのオンライン交流を通して、相手の好みや文化などを知り、国際社会への理解を深める。	外	総	5	
			●			●		【取り組み名】川西の魅力を再発見 【概要】里山体験学習では、国崎クリーンセンターや一庫公園での新しい発見を通して学びをふかめる。	総		6	【単元名】自然災害からくらしを守る・防災教育 【概要】社会科での学びを地域の防災についての学びに結び付け、いざというときに活動できるよう取り組みを進める。	社		3	【単元名】特色ある地域と人々のくらし 【概要】特色ある地域の位置や自然環境、歴史的背景に着目して地域の特色を調べて考えたことを表現する。	社		7
		◎				●		【取り組み名】すずめよう〇〇プロジェクト 【概要】1年間を通じて自分たちが立ち上げた企画について立案計画実行する。学校のため、学校生活をよりよくするために主体性を発揮して取り組む。	総		10	【取り組み名】すずめよう〇〇プロジェクト 【概要】1年間を通じて自分たちが立ち上げた企画について立案計画実行する。学校のため、学校生活をよりよくするために主体性を発揮して取り組む。	総		10	【取り組み名】すずめよう〇〇プロジェクト 【概要】1年間を通じて自分たちが立ち上げた企画について立案計画実行する。学校のため、学校生活をよりよくするために主体性を発揮して取り組む。	総		10

Ⅱ 子ども主体の学校園所運営

Policy②

①「こどもの権利」を学ぶカリキュラムの編成

子ども達が自分自身の権利を学ぶため、**各発達段階に応じて年間指導(保育)計画等に「こどもの権利」を位置づける。**中学校では、第3学年で教育委員会と生徒が意見交換することを踏まえて、第2学年で「こどもの権利」を探究的に学ぶよう編成する。

②子どもの意見を聴く機会の積極的な確保

「こども基本法」の理念を踏まえ、学校園所の運営について、子ども達へアンケートで実施したり、直接意見交換を行ったりするなど、**子ども達の意見を聞く機会を必ず設け、子どもの意見を尊重する恒常的な仕組みを構築する。**

③当事者である子どもの意見を踏まえた学校園所運営の発展的な見直し

学校評価の外部アンケート等により子ども達の意見を把握し、学校園所運営の改善に向けたPDCAサイクルを定着させる。中学校では、子ども自身で想いを実現できるよう、学校予算の活用を含め、**生徒会活動などの生徒の主体的な活動を積極的に支援する。**

3 取組の概要 II 子ども主体の学校園所運営

①「こどもの権利」を学ぶカリキュラムの編成



子どもの意見を聴く機会の積極的な確保

I

教育委員会との 意見交流会

- ・学校だけでは実現できないこと、市全体に関する提案を検討する
- ・教育委員会、市長部局で検討し回答する

(例)給食メニュー提案/通学路整備
市内全校に〇〇を導入する

II

こどもが想いをカタチ にできるプロジェクト

- ・学校で実現できることを検討する
- ・1校あたり約12万円の予算を活用できる

(例)校則変更/下校時刻の見直し
イベントの企画/備品の購入

こどもが 学校運営に 参加する

III

学校のあり方検討 児童生徒との意見交流

当事者である子ども達と、
授業を通して地域の学校の
未来について考える

I-1

生徒と教育委員会の 意見交流会

市長、教育長、教育委員が各中学校と特別支援学校を訪問し、生徒からの提案を聞く機会を設け、意見交換を行った。

A photograph of a student council meeting in a classroom. Several students in dark blue school uniforms are seated at desks, some looking at papers and others talking. A semi-transparent white box with text is overlaid on the right side of the image.

I-2

生徒会交流会

中学校の生徒会代表が集まり、対面による交流会を開催。グループワークの中で、各校の取り組みや課題について意見交流を行った。

Ⅱ

こどもが想いを カタチにできる プロジェクト

全校生から募ったアイデアを子ども達が議論し、各校に配分された予算を活用して実現させる取組。校内ルールの見直しや学校行事の充実、教室環境の改善などを行った。



こどもが想いをカタチにできるプロジェクト【各校の決定報告内容】

	実現したいこと	目的	検討のしかた
川西南中	モップを導入し、掃除の更衣をなくす	- 床拭きで膝をつかずに掃除ができるよう、雑巾がずれないタイプのモップを導入する - 時間内に効率的に掃除が行えるよう 校内のルールを見直し、掃除のための更衣をなくす	校則に関するもの/公共施設に関するもの/全校生徒のためになるものと分類し、各委員会や生徒会で検討。先生方へ提案の上、全校集会で報告して決定した。
川西中	ハンガーラックの購入	- 防寒具(コートなど)専用の置き場をつくり、ロッカーがパンパンになることを防いで朝のストレスをなくす 現3年生も含めて全員が実現を実感できるものにする	川西中学校として困っていること/学校だけで解決できることなどを分類し、「3年生が卒業までに使えること」を中心として生徒会役員で検討。校長先生への提案を経て、全校集会で報告した。
明峰中	新しい屋外用スピーカーの購入	- 体育大会などの学校行事を充実させるため、まずは、屋外での放送を聞こえやすくする - スピーカーの音量を改善し、屋外行事を充実させる	生徒会でアンケートを集計し、大多数が望む意見/少数だが重要な意見/現実性がある意見に分類。役員で候補を検討し、Formsで再度アンケートを実施して決定した。
多田中	回転式モップの購入	掃除道具の改良と、掃除を楽しくさせる工夫を行い、掃除の効率化と掃除への関心(意欲)を高めることをめざす	市内全体の課題/校内で実現できる課題/実現可能性が高いものに分類。 数の多い案だけでなく全ての案を生徒会で検討し、候補案を各クラスへ提案してアンケートを実施 。校長先生に提案し、決定した。
緑台中	ほうきとモップの購入	今年度より、当番清掃から全員清掃に変更したため、不足している掃除道具を充実させ、全員が10分間に集中して掃除に取り組める環境を整える	校内で実現できるもの/実現可能性が高いものを中心に、一部ではなく全員に還元されるものを検討。整備委員会が調査を行い、必要な物品を先生方へ提案し、決定した。
清和台中	冷水機を校内に設置する	- コロナ禍で冷水機が使用できなくなったため、新たに校内に設置し、熱中症対策と学校生活の充実を図る - 生徒みんなの想いを物として形にすることで、今後も継承していく	予算や時間(3年生の卒業までに実現可能か)/全校生徒にわかる形で実現できるかを生徒会で検討し、設置費用も含めて先生方と相談して決定した。
東谷中	学校のトイレをより清潔で使いやすくする	- トイレの臭いの解決のため、掃除道具を充実させ、当番制だった掃除を全校生で行う方法に変更する - 全校生徒の「トイレをきれいに使う」という意識を高め、学校生活をより快適なものにする	校内で実現できるもの/実現の可能性の高さで分類し、少数意見も多数意見に織り交ぜられないかも含めて出された意見をすべて検討。生徒会から候補案を提案し、再度全校アンケートを実施して決定した。
川西養護	みんなで楽しめるダンスコンサートを開く	川西養護学校をもっと楽しくするため、音楽的活動にみんな(全校生)で取り組めるよう、一緒に参加できるダンスコンサートを開催する	「川養をもっとすてきに！みんなで楽しめる！」という目的のもと 、数の多い案だけでなく、出された想いをすべて検討。生徒会で話し合った案を校長先生に提案し、各クラスで報告して決定した。

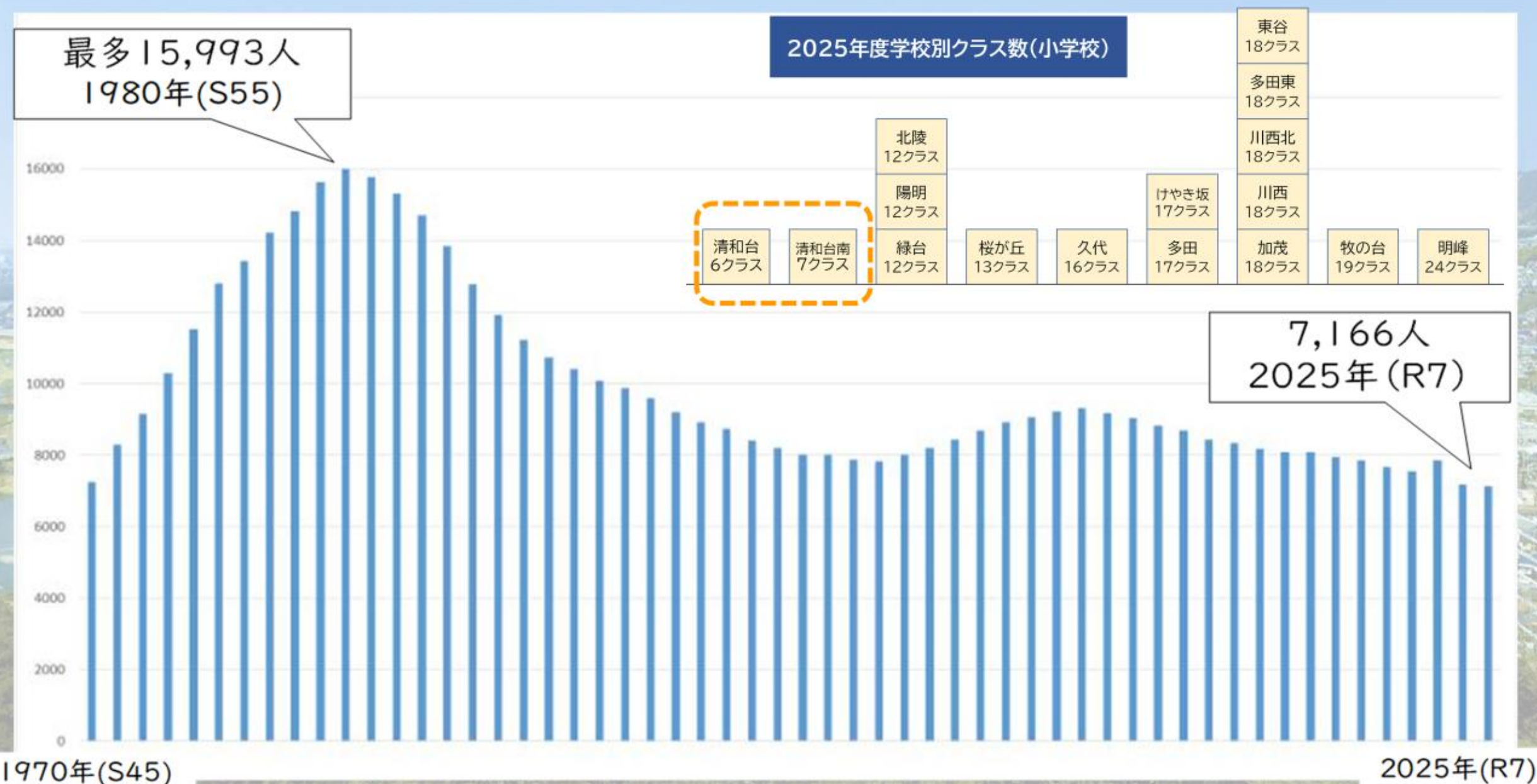


Ⅲ

「学校のあり方検討」 児童生徒との意見交流

当事者である子ども達と授業を通して、地域の学校の未来について考える取組。対象地域の小・中学校、特別支援学校の児童生徒と意見交流を実施。

川西市の児童数の推移



教育委員会の考え

学校教育においては、子どもたちがそこに集う人々を含め、多様な価値観に触れ、互いを認め合い、協力し合う経験を通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばす教育環境をつくることが重要である。このような教育環境を実現するためには、ひとつの学校でともに学ぶ環境が望ましい。



小学校(2校) 4年生～6年生

- ①地域の現状を学ぶ
- ②市内や近隣の地域には
様々な学校規模がある
ことを学ぶ
- ③経験や他校の様子と比
べて考えたことをまとめ、
グループで交流する
- ④他の学校と仲を深める
ためアイデアを話し合う

中学校 2年生、生徒会

- ①地域の現状や学校のあ
り方について検討され
てきたことを学ぶ
- ②小・中・特別支援学校が
ともに学ぶ教育環境に
ついて考える
- ③②について、地域の方
と話し合う(生徒会)

特別支援学校 小・中学部、高等部

- ①校舎を建替え、地域の
小・中学校とともに学ぶ
環境になることを知る
- ②今の学校の好きな場所、
好きな学習を話し合う
- ③地域の小・中学校と一緒
に活動してみたいこと
を話し合う

児童生徒との意見交流 『地域の学校の「これから」を考えよう』

時期 令和7年度1学期末～3学期

対象 清和台小学校、清和台南小学校 4～6年生

学習の流れ

1時間目…地域の子どもの数が減っている現状を学ぶ。

2時間目…市内外の学校とオンラインで交流し、学校生活の様子を聞くことを通して、様々な規模の学校があることを学ぶ。

クラスの数が多い学校 … 東谷小学校、清和台中学校

クラスの数が少ない学校 … 楊津小学校、大島小学校(猪名川町)

統合した学校 … 義務教育学校両荘みらい学園(加古川市)

3・4時間目…経験や他校との交流で得た知識から、自分の考えをまとめる。

5時間目…まとめた自分の考えをグループで発表し、交流する。

6時間目…小・中学校、特別支援学校とともに学ぶ教育環境をめざすことを知る。
仲を深める方法や、統合までに交流できる活動を話し合う。

Ⅲ 子ども主体の学びを支える環境整備

Policy③

①子ども達が多様な学び方をデザインできる教室環境の整備

従来の一斉講義型の授業だけでなく、子どもが主体的な学びを進めていくために、既存の教室環境とは異なる、**多様な学び方を後押しする教室環境を整備**する。

②教職員の主体的な活動

【Ⅰ：子ども主体の教育保育を推進する協議体の設置】

子ども主体の学びや保幼小の円滑な接続などのテーマについて協議する「**学びのNext**」**コアチーム会議を設置し、各学校園所の核となる教育保育職員と議論**する。

【Ⅱ：次期学習指導要領の動向等を見据えた教育課程のあり方の検討】

探究的な学習の充実等を柱に据えた次期学習指導要領の改訂を控える転換点において**現在の教育課程の課題を洗い出し、モデルとなるカリキュラムを作成**する。

3 取組の概要 III 子ども主体の学びを支える環境整備

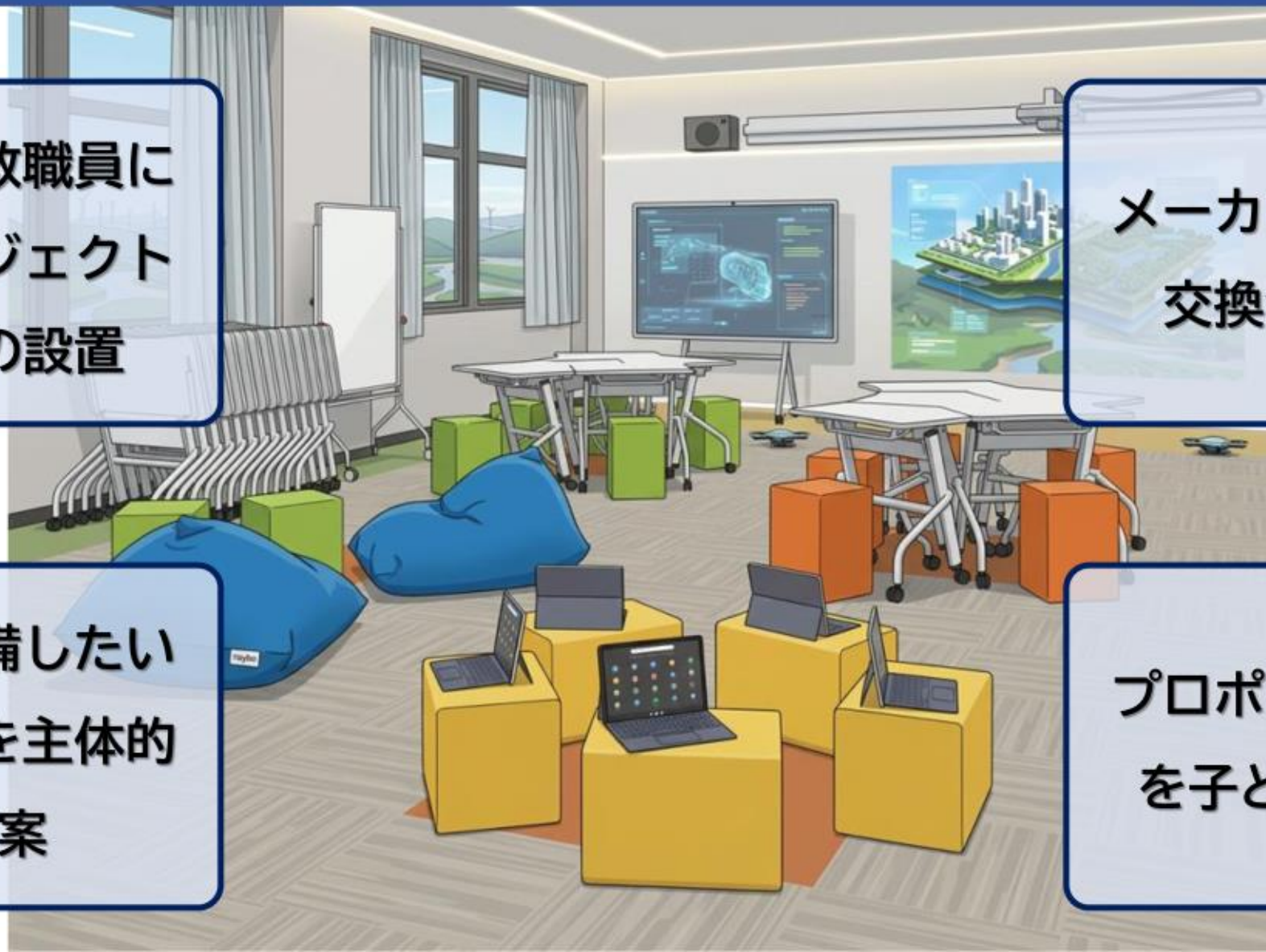
①子どもが多様な学び方をデザインできる環境整備

子どもと教職員に
よるプロジェクト
チームの設置

メーカーとの意見
交換会の実施

学校が整備したい
環境計画を主体的
に立案

プロポーザル審査
を子どもが参観



②教職員の主体的な活動

I

子ども主体の教育・保育を推進する教育保育職員同士の協議体の設置

「学びのNext」コアチーム会議

II

次期学習指導要領の動向等を見据えた教育課程のあり方の検討

グラントデザイン検討委員会
海外との国際交流プログラム検討委員会

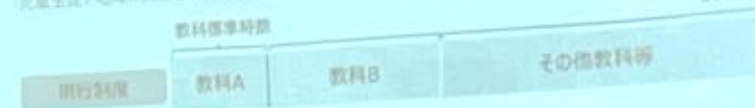


柔軟な教育課程の論点イメージ

多様な個性や特性、児童を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生活や地域の実態も踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とするが図が。

1015単位時間

教科標準時間



I

「学びのNext」 コアチーム会議

子ども主体の学びや幼小の円滑な接続、次期学習指導要領等の動向などについて各学校園所のコアとなる教育保育職員と協議する。



Ⅱ

海外との 国際交流プログラム 検討委員会

ALTを含む教職員、管理職の有志が集う。
子ども主体の学びの充実を目指し、国際
交流のモデルカリキュラムやスタートガ
イド等を作成中。

QUESTION

まなぶ ～学びのレベルアップ～

一人ひとりが学びに没頭しながら、自分も仲間もレベルアップしていきます。

子ども主体の教育・保育の推進

従来の一斉講義の授業だけでなく、子ども自らが「問い」を持ち、学ぶことが大切です。例えば、探究的な学習や教科横断的な学習等、多様な学習方法により子ども主体の教育・保育を推進します。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

主体的・対話的で深い学びを達成するため、アナログとデジタルのそれぞれのよさを活かして、子どもたちの「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進していきます。

子どもが夢中になる遊びを実現する保育
異学年学習 / 放課後学習支援 / 自由進度学習
オンラインによる国際教育 / 劇を活用した表現学習



QUEST

学びの冒険に出発

学びは、みんなが同じ道を進むものではなく、自分のルートを見つける旅。「QUEST」は、そんな多様な学びのあり方を大切に、みんなが成長できる環境をつくる取り組みを表しています。

TRANSFORM

ととのえる ～学びの言葉を支える～

ほっとしたい時や悩む時、一人で頑張りたい時や仲間と協力したい時、子どもたちの心に寄り添い、育つ環境を整えていきます。

多様な育ちや学びを支える環境

ICT機器の拡充など、子どもの気付きや疑問に回答できる環境を整え、子どもにとってよりよい学びを提供するだけでなく、教育保育職員による子どもたちへの豊かな支援につながることを目指します。

子どもに伝達する学校図所

子ども主体の教育・保育活動に取り組む学校図所や教育保育職員等の活躍を市全体へ広げることで、市内の教育保育職員が主体的に学び合う同僚性高め、子どもとともに学ぶ学校図所を目指します。

教育保育職員の資質能力向上に資する研修 / チーム担任制
学級および学校規模の検討 / 柔軟な教育課程の編成
中学校での少人数授業の推進 / 放課後の居場所づくり



UNITE

つつむ ～豊かな仲間とともに～

ありのままの自分、多様な仲間、誰もが大切にされ、関わり合って育っていきます。

多様な学びの場の確保

教室での学びのみではなく、校内リポートルームや学校外での学びのスペース「セオリア」、オンライン学習等、誰もが学ぶための場所と選択性を確保します。

インクルーシブ教育・保育の推進

集団及び個々の教育的ニーズに応じた配慮や支援、ユニバーサルデザインの視点を活かした教育・保育など、一人ひとりが自分のよさや可能性を認識し、違いや失敗を認め合える集団をつくっていきます。

0.1.2歳児の育児担当制保育 / 「子どもの人権」学習会
自立活動や通級指導の充実 / 切れ目のない支援体制の構築



ENGAGE

たずさわる ～一人ひとりが主人公～

誰もが主人公だからこそ、自らの権利を知り、思いを語り、自分たちの生活を創っていきます。

子ども自らが創る生活

子どもの日常生活において、例えば運動会や生活発表会、卒業式等の行事、校則等のルールメイキング、教育課程の内容等に対して、自ら関わり、意見を表明し、仲間と創り上げる経験を積んでいきます。

子どもと教育委員会の意見交流会

子どもが自身の意見を表明する機会を通して、学校や社会の一員としての当事者意識を育み、次世代の民主主義社会の担い手の育成を図るために、子どもと教育委員会の意見交流の機会を持ちます。

学級活動や児童・生徒会活動をはじめとした特別活動の充実
デジタル・シティズンシップ教育の推進 / 給食献立意見交流会



SHARE

つながる ～出会いを 넓げ経験を紡ぐ～

柔軟な出会いはあちこちに。地域を中心とした川西市全体が子どもたちの育つ場でもあり、活躍する場でもあります。

就学前・小・中の交流や連携の強化

子どもたちの豊かな育ちが連続してつながるように、市立図所ならびに認可された民間図所と小学校の連携を強化するための連携校図所を制定し、「川西市架け橋カリキュラム」を作成することで、異校種連携を充実させます。

部活動の社会移行

生徒のニーズが専門化・多様化していることに加え、今までと変わらない活動を行えるよう、また、新しい活動に挑戦できる環境を整えられるように、持続可能な形として、部活動の社会移行を進めています。

地域の方との関わり(ボランティア・ゲストティーチャー等)の推進
民間との連携 / 体験活動の充実 / 学校運営協議会の充実



加茂こども園



自分で決定し考える子どもをめざして～自分の考え・感じ方を多様に表し、認め合える環境づくり～
子どもたちの興味・関心を捉えて、主体的に遊び、学び、生活していく環境を職員みんなで考えて実践しています。「阪神・丹波地区幼保小の円滑な接続推進研修会」において、交流や学びをつなぐ研修を加茂小学校とともに進めています。

QUEST

幼小接続でつながりを強める

～交流活動・授業公開・公開録画を通して～

これまでも生活科の授業や図工展の見学、プールを借用するなど、子どもたちが小学校を訪問する機会をもち小学校への憧れの気持ちを高められるように交流をしてきました。次は「指導計画のつながり」「職員の仕事のつながり」を深めるために、相互に授業公開や公開保育を行っています。こども園と学校が同じ視点で「子どもの学びについて」振り返りができるように「共通のレンズ(相互参観)」を作成し、一緒に研修を深め、取り組んでいます。

 POINT

育ってほしい子どもの姿を学校間で共有し、教育課程上に交流を位置づけることで、持続可能な取り組みとし、こども園と小学校との「段差」の解消をねらいとしています。

QUEST

見て！聞いて！～サークルタイム活動～

日々の生活や遊びの中で、「こんなことしたい!」「困ったことがあったんだけど…」「こんなに面白いこと見つめたよ!」など、様々なことを感じたり、考えたりしている子どもたち。個々の気付きや発見をクラス全体で共有できるように、輪になって話し合います。共有することで「もっとこうしてみよう!」「それいいやん!」「自分も一緒にしたい!」と心が動き、より遊びや考えが深まっていきます。



POINT

保育の中で子どもたちが感じている様々な気づきや発見、思いなどのたくさんのことを、クラス全体で共有し、「仲間づくり」や「協同的な学び」につなげることをねらいとして取り組んでいます。

取 り 組 み の 成 果

幼小提携でつながりを強める ～交流活動・児童公園・公園保育を通して～

加茂小学校と幼小接続に関する共同研究に取り組んできました。保育や授業を見る共通の視点「共通のレンズ(相互参照)」を作成し、保育や授業を見合うことで、子どもの主体的な学びにつながる環境構成や保育者の関わりについて、意見交換をすることができました。

また、入学直後の子どもの姿を共有することで、親子や不安への理解が深まりました。今後も小学校と連携しながら持続可能な取り組みを進めていきます。

教育委員会事務局の取り組み②

QUEST

自分たちで考える「地域の学校のこれから」

— 野馬散策 —

児童数が減少している清和台小学校と清和台南小学校では、学校のあり方を検討しています。両校の児童は、児童数が減少している現状を学んだり、他市町の様々な規模の学校に聞きたいことをまとめ、オンライン交流や自分の学校との違いを話し合ったりするなど、望ましい学校規模やどんな学校がいいかについて考えました。これらの内容は、ひとつの学校で学ぶ環境を整えていくプロセスにおいて、大切な意見として反映されていきます。



9

POINT 子どもたちがいろいろな環境の学校を知ることにより、これから自分たちが通う学校はどのような学校がいいのかを一緒に考えていきます。

QUEST

こどもが想いをカタチにできるプロジェクト

— 智慧管理 —

ここが面白いポイントです。そのポイントが「基礎の型」の通り			
1. 基礎の型	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ
2. 基礎の型	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ
3. 基礎の型	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ
4. 基礎の型	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ
5. 基礎の型	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ	基礎の型を学ぶ 基礎の型を学ぶ

市内の中学校と特別支援学校では、「こどもが想いをカタチにできるプロジェクト」として、子どもたち自身が、全校生から集まった想いを議論し、学校の先生方に提案しながらカタチにしていく取り組みを行っています。

令和7年度は「全校生で楽しめる行事を企画したい」「学校生活を充実させるための備品を設置したい」などが実現しました。この取り組みによって、生徒会を中心として主体的に学校運営へ参画する仕組みが生まれています。

Q

POINT 子どもたちが主体的に考え、様々な意見を議論して提案し、「自分たちの想い」の実現のプロセスを学びます。

QUEST

台湾との提携・国際交流

— 教育學原理 —

海外の子どものオンライン交流を推進しています。教育委員会は、事前学習、授業構成の助言、交流相手校との打ち合わせなどの支援を行います。また、子どもたちに安定的に交流機会を提供し、系統的な学びを展開するため、台湾の新竹市および屏東県の各教育処と教育に関する覚書を締結しました。今後は各教育処と連携を密にし、交流プログラムの質的向上と交流機会の拡大に努めます。



Q

POINT
相手のことを知りたい・自分の考えを伝えたいという気持ちを出発点とし、子どもたちが外国語やジェスチャーを用いて主体的にコミュニケーションを図ります。単なるイベントではなく、主体的な学びと位置づけ、継続的に交流していきます。

4 本市における他の主要施策・事業

- ◎校内サポートルーム … R 6 年度全校設置・支援員配置
- ◎長期休業の見直し … R 7 年度秋休みを創設
- ◎部活動の社会移行 … R 8 年度完全移行
- ◎水泳授業の民間委託 … R 8 年度全小学校で実施
- ◎公募型の研究指定 … プレゼン審査で指定校決定
- ◎教員個人の研究指定 … 個人研究の支援事業を創設

ご静聴ありがとうございました。

